

2025年6月15日作成 Ver.1.5

《情報公開文書》

胸部外傷症例に対する手術介入基準の設定と有用性の検討

研究の概要

【背景】胸部外傷はその受傷機転や程度によって手術の要否や治療方針が大きく異なります。現状では手術介入のタイミングが明確でない場合もあり、結果として入院期間が延長したり、予後が悪化したり、医療資源が過剰に消費されることがあります。明確な手術介入基準を設定することで、迅速な意思決定が可能となり、患者さんの予後改善および医療資源の適正な使用が期待されます。

【目的】本研究の目的は、当院において呼吸器外科が介入した胸部外傷症例を対象とし、

- ① 救命可能性（生存率、救命成功の指標）
- ② 術後合併症の発生状況
- ③ 輸血量
- ④ 在院日数
- ⑤ ドレーン留置期間

を評価項目として検討し、手術介入の適応基準および戦略の有効性および問題点を明らかにすることです。

【意義】この研究成果により、臨床現場での胸部外傷に対する治療方針決定が迅速化され、患者の負担軽減および医療資源の効率的活用に寄与することが期待されます。

【方法】長崎大学病院呼吸器外科入院患者の手術内容、検査内容、術後経過等を調査するための長崎大学病院呼吸器外科手術症例データベースから抽出した情報を用いて、以下の項目を含む胸部外傷患者の情報を収集し解析します。

対象となる患者さん

2017年4月1日～2025年3月31日の間に、長崎大学病院呼吸器外科で胸部外傷と診断され、呼吸器外科による治療介入（胸腔ドレーン、胸腔ドレナージ手術、輸血療法など）を受けた患者さんで、長崎大学病院腫瘍外科呼吸器外科手術症例データベースに登録されている方を対象とします。年齢・性別は問いません。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- 年齢、性別、既往歴、外傷重症度（AIS, ISS, RTS 等）
- バイタルサイン（血圧、心拍数、体温、呼吸数、意識レベルなど）
- 血液検査（血算、凝固、血ガス、腎肝機能など）
- 画像診断（X線、CT、超音波など）
- 手術記録（術式、輸血量、術中合併症等）
- 術後経過（合併症、在院日数、ドレーン留置日数、人工呼吸器離脱等）

本研究で利用する情報について詳しい内容をお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 6 月 19 日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2025 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究責任者

所属：長崎大学病院 腫瘍外科
氏名：松本 桂太郎
住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1
電話：095 (819) 7304

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 腫瘍外科 小畑智裕（研究分担者）
〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号
電話：095 (819) 7304 FAX 095 (819) 7306

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095 (819) 7200
受付時間：月～金 8:30～17:00（祝・祭日を除く）